

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 12 日現在

機関番号：32633

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2012～2013

課題番号：24890246

研究課題名(和文) 汎用性のある紙芝居教材を用いたタンザニア農村部の妊娠期教育プログラムの開発と評価

研究課題名(英文) Development and Evaluation of Simple and Easy Antenatal Education Program for Pregnant Women and Family in Rural Tanzania

研究代表者

新福 洋子 (SHIMPUKU, Yoko)

聖路加国際大学・看護学部・助教

研究者番号：00633421

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円、(間接経費) 660,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、タンザニア農村部で安全で安心な出産を促進するため、具体的には医療者との出産を選択し、緊急時にも必要なサポートや介入が得られるよう行動するために、女性や家族の視点から理解しやすい妊娠期プログラムを開発することである。タンザニア人研究者との協働で紙芝居教材を作成し、3つの村にて妊婦42名とその家族96名の合計138名を対象に、プログラムの実施と評価のための質問紙調査を行った。現在データを分析中であるが、プログラム評価として、「紙芝居はとてもよかった。理解しやすかった。」「こういった教育はタンザニア全土で、妊産婦とその家族に行われるべきである」などが語られた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to develop a simple and easy antenatal educational program for pregnant women and their family in rural Tanzania. This program aims to promote births attended by skilled personnel and to cause behavioral changes among pregnant women and their family to receive necessary support or intervention in case of emergency. The educational material using picture drama was developed collaboratively with a Tanzanian researcher. The educational program and data collection for evaluation was conducted with 138 participants (42 pregnant women and 96 family members) in three villages. The data is currently being analyzed. In the program evaluation, the participants stated, "The picture drama was good and made us easy to understand," "This type of education should be given to all Tanzanian people, pregnant women and family."

研究分野：医師薬学

科研費の分科・細目：生涯発達看護学

キーワード：助産学 国際協働 妊娠期教育 アフリカ タンザニア

## 1. 研究開始当初の背景

国連が 2000 年に設定したミレニアム開発目標の中で、第 5 の目標である妊産婦の健康状態の改善は、サハラ砂漠以南で著しく滞っており、世界保健機関も最重要課題として掲げている(World Health Assembly, 2011)。開発途上国の妊産婦死亡率(出産 10 万対)の平均が 290 件(United Nations, 2011)であるのに対し、サハラ砂漠以南に位置するタンザニアでは 454 件と報告されている(Demographic Health Survey[DHS], 2011)。妊産婦死亡率改善の鍵となるのが、助産師、医師、看護師といった産科教育を受けた医療者による分娩介助であるが、タンザニアの農村部では、医療者による出産は 2010 年で 42.3%に留まり、半数以上の妊産婦が医療者の介助なく出産している。

安全で安心な出産を促進するため、女性や家族の視点から理解しやすく、行動につながるような教育プログラムを開発する必要がある。農村部では、深刻な医療者不足から妊婦健診での指導の時間は限られているが、農村民の一般的な最終学歴は初等教育であり、医療者の説明を短時間で理解することは難しい。農村部の妊婦健診で合併症のサインについて情報提供がなされたのは 46.7%と報告されている(DHS, 2011)。Sarker ら(2010)も、健診を受けた妊婦の内、合併症のサインについて一つでも述べることができたのは、54%に留まっていたことを報告した。Magoma ら(2011)は、妊婦教育について医療者にトレーニングを施したが、妊婦健診での合併症のサインや安全な分娩についての説明は大きく改善されなかった。医療者不足に加え、農村部は多産であり妊産婦が多く、すでに多忙な医療者が役割を増すアプローチに限界がきている。

タンザニアの文化や背景を反映した教育プログラムとして、Madeni ら(2011)は、タンザニア都市部思春期の生徒に紙芝居を用いた性教育を実施し、知識と行動のスコアに統計的有意差を認めたことを報告している。農村部においても、絵と語りで伝えられる教育プログラムの有効性は期待することができ、妊婦・家族に対して効果的に正しい情報を伝えられる可能性がある。

## 2. 研究の目的

タンザニアでは全体の半数以上の妊婦が医療者のいない状況で出産をし、妊産婦死亡率は依然として高く、危機的状況にある。特に農村部では妊産婦の出産に関する基礎知識が不十分である。安全で安心な出産を促進するには、妊婦とその家族が妊娠・分娩・産褥早期の健康管理とリスクに関する正しい知識を得、異常時や分娩時に医療者の介助を受けるために行動できるような教育が急務である。本研究では、タンザニアの農村部に

住む妊婦とその家族に対する紙芝居を用いた妊娠期教育プログラムを開発し、評価を行う。

## 3. 研究の方法

研究デザイン：紙芝居を作成・実施し、量・質両方のデータを使用する Mixed Methods。

対象：組み入れ基準は、以下の通りとした。

- a. 妊婦：タンザニア農村部で生まれ育ち、16 歳以上で、スワヒリ語で読み書き・コミュニケーション可能な妊婦。現地に在住する研究協力者から機縁法でリクルートする。
- b. 妊婦の家族：a に参加した女性の家族(16 歳以上で上記スワヒリ語能力を持つ)、必要人数に満たなければ更に機縁法を用いてリクルートする。家族に妊婦がおり、一緒に住んでいる場合参加可能。

## プロセス：

平成 24 年度は紙芝居の作成と、紙芝居実施前後の妊婦と家族の変化を量的評価する質問紙と質的評価の質問項目の作成を行い、研究計画をまとめて必要な倫理審査に申請する。

平成 25 年度は紙芝居の実施と、Mixed Methods を用いた評価を実施する。量データは、紙芝居実施前のプレテストと、実施後のポストテストで、2 度質問紙を用いて収集する。質データは、自由回答式のフォーカスグループ・ディスカッションを行い、紙芝居の内容の理解、教育方法について良い点、改善点などを討論し収集する。逐語録を作成し、スワヒリ語を英語に翻訳後、翻訳の妥当性を確認する。

## 4. 研究成果

平成 24 年度は、タンザニア人研究者と協働で、世界保健機構の出版物である「Focused Antenatal Care Package」の内容に合わせて紙芝居教材と質問紙の内容を作成し、それらをスワヒリ語に翻訳し、日本とタンザニア両国での研究倫理審査委員会に提出した。

特に質問紙の内容妥当性を高めるため、アメリカ人研究者とタンザニア人研究者から、専門的知識の提供を受けた後、農村部の女性を対象にパイロットテストを行った。研究者たちからは、より対象にとって分かりやすい言葉の選定や、質問の取捨選択について意見をもらい、38 項目に質問を選定した。

その後行ったパイロットテストでは、質問紙には、ヘルスセンターから家までの時間を問い、「何時間何分」と記載する項目があったが、皆時計を見る生活をしていないため、「何分」という答えを得ることができず、時間もあいまいな返答であった。そのため、最

も近いヘルスセンターまで 1 時間未満か、1 時間以上かを問う質問に変えた。また、収入を問う質問も、多くが農民であり、「月にいくら収入がある」という問いには答えを得ることができず、「1 日にいくら使用する」という問い方に変更した。異文化における質問紙開発を行う際には、研究の妥当性を高めるために、専門家と対象となる人々の声を取り入れることが必要であり、その過程を踏んで研究の準備を行うことができた。

平成 25 年度には、汎用性の高い紙芝居教材を完成させ、日本・タンザニア両研究機関の研究倫理審査委員会からの承認を得て、データ収集、データマネジメントと分析を行った。

紙芝居教材は先行研究を参考にタンザニアの文化に沿ったストーリーを展開し、イラストを作成した。20 ページに及ぶ紙芝居を手作業で作成するには時間を要したが、タンザニア人の衣服やタンザニア特有の絵画様式も取り入れ、現地の人になじみやすいイラストが完成した。

タンザニアにおいて、National Institute of Medical Research (NIMR)、Tanzania Commission for Science and Technology (COSTECH) の 2 か所から承認を受けた。承認を受けるプロセスを学び、関係機関の職員とのネットワーキングも行うことができた。

データ収集は 3 つの村で、妊婦 42 名とその家族 96 名の合計 138 名を対象に、教育プログラムと質問紙、プログラム評価のためのグループインタビューをスワヒリ語で実施した。得られた量的データは SPSS に入力し、現在分析を行っている。質的データにおいては、スワヒリ語から英語に翻訳し、サマリーを作成した。代表的な意見として、「紙芝居はとてもよかった。理解しやすかった。」「こういった教育はタンザニア全土で、妊産婦とその家族に行われるべきである」などが語られた。

本研究はタンザニア人研究者と協働で行い、現地での許可申請の方法、リクルートにおける村長とのコミュニケーション、データ収集後の謝礼の方法など、一般的な倫理的配慮に加え、現地のルール、文化に即した方法で実施した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

#### 〔雑誌論文〕(計 1 件)

Shimpuku, Y., Patil, C., Norr, K., & Hill, P. (2013). Women's Perceptions of Childbirth Experience at a Hospital in Rural Tanzania, *Health Care for Women International*, 34(6), 査読有 461-481.

#### 〔学会発表〕(計 4 件)

Shimpuku, Y., Horiuchi, S., Matsutani, M., Eto, H., Nagamatsu, Y., Oguro, M., Iida, M., Yaju, Y.: Partnership Model of Global Collaboration: The Shared Value of Humanized Childbirth in Tanzania, 17<sup>th</sup> East Asian Forum of Nursing Scholars, 2014 年 02 月 20 日 ~ 2014 年 02 月 21 日, Manila, Philippines

新福洋子、Frida Madeni: タンザニア農村部の妊婦と家族を対象とした汎用性の高い妊産婦教育プログラムの開発、第 28 回日本国際保健医療学会学術大会、2013 年 11 月 01 日 ~ 2013 年 11 月 02 日、沖縄

新福洋子: 国際保健における看護・助産人材と育成: タンザニア助産人材、第 28 回日本国際保健医療学会東日本地方会 (招待講演) 2013 年 03 月 23 日、東京

Shimpuku, Y., Horiuchi, S.: The Concept of "Humanization of Childbirth with Women-Centered Care (HC/WCC): Japanese Nurse-Midwives Application of the Concept to Global Health Research, Education, and Practice", The 10<sup>th</sup> Annual National Conference, Asian American Pacific Islander Nurses Association, "Global Health: Nursing in the Future-Research, Education, and Practice, 2013 年 03 月 19 日 ~ 2013 年 03 月 20 日, Honolulu, Hawaii

#### 〔図書〕(計 0 件)

なし

#### 〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況 (計 0 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

新福 洋子 (SHIMPUKU, Yoko)  
聖路加国際大学・看護学部・助教  
研究者番号：00633421

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし